

YMfg

この世界で。この街で。このじぶん。

2024 VOL.07

from
北広島市
九州県
山口県

LOCAL
ISSUE

街で育つ。
街で育てる。

(Growing)

森を育てる | 人を育てる
文化を育てる | 育ってる人に聞いてみよう!



変化の時代じゃない 時代なんてありました？

人の一生は　変化の連続だ。
まず　細胞が　入れ替わる。
毎年必ず　年齢が変わる。
生きてるって　そういうこと。

人が　集まって　できている社会も、
変わるのは　あたりまえ。　健全。　真っ当。

いま、　日本は　世界は　変化のときだと
声高に語られがち　だが。
いつだって　変化の時代　ですよと
涼しい顔で　いきたいものだ。

DXがもう　茶飲み話になり、
AIも　あすには　AGIに。
ゆく川の　流れは　絶えずして、
しかも　もとの水に　あらず。
と、方丈記。
令和の川を　生きてゆけ。

この世界で。
この街で。
このじぶん。

山口銀行　もみじ銀行　北九州銀行

YMfg

YMfgが思い描く「地域の豊かな未来」を共有するために、この街に存在する、あしたを託したい、あしたを照らしてほしい人や取り組みを紹介します。

三都では、こんな新しい芽が育っています

(Growing)



[広島県]

木を育てる

林業の可能性を広げる〈フォレストワーカー〉

P06



[山口県]

人を育てる

架空の学校「アルスコレ」で出会う、新しい私

P12



[北九州]

文化を育てる

新しい飲み＆まなびのBAR〈The Ceratain Bar〉

P18

育てる人に聞いてみよう！

P11 広島県 | いけやん(16歳)

P17 山口県 | せいめい(11歳)

P23 北九州 | ウウア(9歳)

P24 YMfgのあした考 第2回 [子育て、街育て]

連載

P26 あしたのランチ、何にする?

P27 わたしを変えた住空間

P28 三都の雑貨物語

P29 ～からのいい景色

P30 YMfg あした新聞



COVER

yurinasia (ユリナジア)

水巻町出身在住のダンサー、2児の母。自身が主宰する〈jABBKLAB〉のSNSに投稿したダンス動画が、国内外から注目を集め。以来、MVやCMへの出演、振付で活躍中。現在放送中の『虎に翼』のOP動画の振付も担当。

PHOTO_福田喜一

福岡県水巻町の
〈jABBKLAB〉では、
若い才能が育っています

〈jABBKLAB〉はダンスだけを習うところだとは思ってないので、「スクール」ではなく、「スポット」と呼んでいます。ここで人生が変わることもあるとすごく思っていて、未就学児から社会人までさまざまなメンバーが集い、そこで芽生える「あの人みたいになりたい」という思いを大事にしています。生徒自身が可能性や向上心を開いていく。若いうちに好きなことをひたむきにやることがどれだけその人を豊かにするか。ここでできる友達や、ダンスを通して初めて行く場所、見える世界をみんなと一緒に育んでいます(yurinasiaさん)。

世界で活躍するyurinasiaさんを育てたものとは?
答えは公式Instagram限定で公開中。



今、三都では、可能性に満ちた新しい芽が続々と育っています。時代の変化に戸惑うことなく、逞しく、軽やかに育つ若い息吹を見ていると、この街を飛び越えて、この世界をも変えてしまうのではないか、そんな希望さえ感じます。この特集では、街のあしたがより豊かになることを願って、YMFGが大切に育てていきたいものを紹介します。

(Growing)



森に吸い寄せられた
ユニークな人々(その一部)

森のフォトグラファー



林道の魔術師



森林組合からチームに加わった草川修壮さん。山を見極め、道を通したのも彼の仕事。各地で自伐型林業の講師も務める、凄腕の持ち主。

植物を愛しすぎた男



植物マニアの伊藤大智さん。農業用商品を扱う会社に務めたが、商売よりも木そのものの方が好きだった。後のボンギリプロジェクトの立役者となる。

Team: FOREST WORKER

海を愛するあまり森に来た男



海が大好きで、釣具屋の店長まで務めた辻賀士さん。海が豊かであるためには、川を通じて繋がっている森が豊かでなければ、林業の道へ。

人も好きだが、森も好き



田村さんの弟・孝太さん。もともと介護職に就いていたが、兄に影響されて林業の道へ。「山の仕事を…癒やしですかね」と目をキラキラ。

全てはこの男から始まった



代表を務める田村栄太さん。田村さんの先導力と懐の広さと面白がり体質のおかげで、次々と楽しい企画が形になりつつある。

(Growing) 街で育てる。街で育つ。【広島県】

育てるホツトナ森の中を見つけた

木を育てる仕事

「めちゃくちゃ楽しい。まじでいい仕事です」と、広島県庄原市で林業に携わる「フォレストワーカー」のメンバー誰もが口にする。

林業といえば危険で大変な仕事で、担い手不足だと聞くが、ここででは全くそんな重苦しを感じない。みんな三三〇と働いている。間伐(木が密集しないよう、一部を伐採して間引くこと)の作業をして山に連れて行つてもらう。この森で大いたい植えてから70年ほど経つて、樹高は25~30メートルになると、代表の田村栄太さんに教わる。到着すると、いままさに木の木を切ろうとしていたメンバーの声が響いていた。「そっちに倒すよ」「繩、掛かってます」「オッケー!」。安全確保のため、大きな声を掛け合つて準備を行う。エンジンのエンジンON。刃が木に当たった瞬間、轟音が響き、木くずが舞う。倒したい方向を確認しながら、幹に刃を沈めていく。ミシリ! と木が軋む音が聞こえて、

「倒れるよー!!!」の声とともに、ゆっくりとしなりながら一本のスギが倒された。初めて見る木が切られる瞬間に、アドレナリンが出る。間伐をする日は、だいたい日に30本。私たちが知らない山の中で、日々ドラマが起きている。

木を切つて、街をアクトディブに!

田村栄太さんは2017年に「フォレストワーカー」を創業。地元こそ庄原だが、家業が林業だったわけではない。社会人野球に取り組んでいた田村さんは、体の故障をきっかけに勤めていた工場をやめることに。実家に戻ったが、ちょうどリーマンショックのタイミングで地元に仕事はない、声を掛けでもらったのが森林組合だった。「林業がなんするか、全然わからんところからの始まりでした」と田村さん。初日に山に入り、「一日枝打ちをやつた。その時、ついに見つけた! という感覚があったそう。「体はわけがわからんくらい、キツいんですよ。ただとにかく楽しかった。山で食

べる飯もうまいし、休憩した時に見える山の稜線も信じられないくらいきれいだし、これほめっちゃ自分に向いとるなと思いました」。分単位のシフト制で自然と切り離された工場とは真逆の環境で、田村さんは天職を見つける。「自然の中で体を動かして働くのは、単純な気持ちがいいんですよ」と笑う。林業は、地域の森林組合が、山主と呼ばれる土地の持ち主から管理を請け負っている場合が多い。田村さんは森林組合で山を手入れし育てる「造林保育」と、木を伐採して加工し製材工場まで運ぶ「素材生産」の仕事を自分に叩き込んだ。そして5年で独立し、「フォレストワーカー」を立ち上げる。

**Team:
FOREST
WORKER**

フォレストワーカー

後世に山を残すため、広島県庄原市を拠点に、環境保護全型の林業を目指して事業を行っている。造林育林を行いながら、兼業型林業のアドバイス、ツリーケアなど、木にまつわるさまざまな仕事に取り組んでいる。公園をつくったりトレイルランのコースをつくったり、活動はいわゆる「林業」の枠を超える。

持続可能な クオリティの高い 森のつくりかた

① 山に子どもの木を植えます。
植えるのは、スギやヒノキ。す
ぐに大きくなって、まっすぐだ
からとても使いやすいよ。

② 50年後。すくすく育った木
は、いよいよ木材としてつか
く。ここまで大きくなるのに、
雑草をとったり、間引きをした
り、てまひまかかります。

THANK
YOU

③ 自伐型林業の森では、毎年少しづつ
木を切ってお金に替えることができます。
残った木はもっと長い時間をかけて、よ
りよい木に育ちます。山がまるはだかに
ならず、大雨のときに崩れにくいという、
よい点もあります。

少しづつ木を切るので、ほかの仕事をし
ている人や女性など、いろんな人が働く
ことができます。移住してきた人たちの
しごともなるし、雪のない時期だけブ
ロスノーボーダーが林業で働く、なん
て例もあるそう。

ほったらかしにせず、ちょくちょく人が
山に入るの、シカやイノシシなどが里
に下りてきにくくなります。

こうして持続可能な森が育っていきます。

① 山に子どもの木を植えます。
植えるのは、スギやヒノキ。す
ぐに大きくなって、まっすぐだ
からとても使いやすいよ。

② 50年後。すくすく育った木
は、いよいよ木材としてつか
く。ここまで大きくなるのに、
雑草をとったり、間引きをした
り、てまひまかかります。

THANK
YOU

③ 自伐型林業の森では、毎年少しづつ
木を切ってお金に替えることができます。
残った木はもっと長い時間をかけて、よ
りよい木に育ちます。山がまるはだかに
ならず、大雨のときに崩れにくいという、
よい点もあります。

少しづつ木を切るので、ほかの仕事をし
ている人や女性など、いろんな人が働く
ことができます。移住してきた人たちの
しごともなるし、雪のない時期だけブ
ロスノーボーダーが林業で働く、なん
て例もあるそう。

ほったらかしにせず、ちょくちょく人が
山に入るの、シカやイノシシなどが里
に下りてきにくくなります。

こうして持続可能な森が育っていきます。



Team:
FOREST
WORKER

面白い公共性って？

戦後復興期から高度経済成長期にかけて、大量の木材が必要とした日本では一度に大量の木を植え、50年かけて育てた後、斧で採る林業が行われてきた。多くの人手と大型機械を導入することで成り立っていたが、国内での木材需要の落ち込みや木材の輸入

自由化によって、やがて林業は赤字産業に。さらに就業人口が減って山林が荒れる、皆伐（山一帯を全て伐採すること）で土砂災害が起きやすくなるなど、問題が指摘されてきた。

「林業って、自分たちの都合だけでは完結しないんです。例えば全部切ってハゲ山にてしまえば売上は立つけれど、場合によっては山の保水能力が失われ里では水が枯れてしまうんです。自分たちのことだけ考えて、次世代には田んぼができるなくなったという話も聞きます。自分たちのことだけ考えて、次世代には山がなくなってしまった、なんて面白くないじゃないですか」。

田村さんの判断基準は「面白い」。ただそれは自分勝手な面白さではなく、周りの人や環境、そして未来に庄原で暮らす人たちもい状態でられるかどうか。林業の公益性を見た田村さんが面白いと思った手法が、「自伐型林業」だった。

自分でやるしかない

自伐型林業では、植林して育った木を一度に切ってしまうのではなく、少しずつ切り出すことで、長い期間収入を得られるようになる。残された木は時間をかけて育つためより質のいい木材になる。少ない人数と小型の重機で作業できるため事業コストが少なく済むなど、メリットはいろいろ。そしてより田村さんは自伐型で育てた木そのものの美しさに魅了された。

「奈良県で、江戸時代から代々継いで250年ほどの吉野杉を守り育てているところを見せてもらつて、その木がきれいに驚きました。広島にはあんな大きな木は育っていないし、受け継ぐシステムもない。これは誰かがやつたほうがいいなって」。

じわじわと味方を増やす

この日案内してもらった山は、林道を挟んで両側に從来型の大規模林業の森と、自伐型林業の森が並んでいた。驚くことに同じスギ、ヒノキを育てても、その景色はずいぶん違う。従来型林業の森の方は、大きな重機を入れるため幅5メートルほどのまづすぐ広い道が森を横切っている。「こちちはちょうど森の中が明るいでしょう。いまあまり良い状態じゃないんです。葉がうまく茂らズ風が過剰に通る森は、木が揺れてぶつかるので木材の質が落ちてしまうんです」と田村さんは説明する。

一方の自伐型林業の森は、やや薄暗い葉がえながら、崩れにくい道を通して、雨の流れなどを考えながら、崩れにくい道を通しています。山のことをよく知つていなってできません」。この道を通つて山に分け入り、チェーンソーで木を切り、小型コンボや軽トラで木を運び出す。従来型の森が、木の生産に特化しているのに対しても、自伐型林業の森は、山に合わせて木を育てている。よう見える。この森は、広島ではまだまだ数が少ない自伐型林業を体感できる玉デルケースとして、見学も受け入れている。

フォレストワーカーは、自伐型林業と共にを持つ山の所有者を味方につけながら、できるところから取り組みを始めている。「この木は70年前にまだ幼かった山主さんがお父さんと植えられたそうです。そういう話を聞くと、いい木に育てたいなと思うんですよ」と田村さん。

育てる人いれば、育てられる人あり。
そして育てられる方にも、意見がある。
育てられ代表として、各地の子どもたちに
インタビューを行なった。

Name

いりやん

Age

15才

School year

高校1年

最後は自分で決めさせて
くれるのがありがたい。

——今日は駅で待ち合わせましたけど、おうちは近く？

いけ 近くです、近くです。駅の裏です。高校もすぐ近くなので、毎日半径300mくらいで生活している感じです。

——学校ではなにしてる時間が楽しい？

いけ 友だちとお弁当食べてる時ですね。母が作ってくれます。卵焼きが一番おいしい。日によってバリエーションがいろいろあるんです。ネギとか、カニカマとか。食べている時は部活とかゲームの話題です。あと野球。

——やっぱりカープ？ 誰のファン？

いけ 当然です。好きな選手は床田投手です。変化球で三振をとった時は、しひれますね。

——駅で話を聞いてると、友だちがたくさん通るね。女の子の友だちも多そう。

いけ 中学校が一緒だった子も、高校の子も駅を使うからですね。あとうちのクラス、21人中18人女子なんです。女子の方が数の勢力が強いんで(笑)。

——庄原で一番好きな場所はどこですか？

いけ 総合体育馆かな。1時間100円とか200円で借りれるんで、けっこうみんな遊びに使うんです。そこで待ち合わせて、遊びに行くこともあります。

よく遊びに行くのは、三次です。庄原からだと30分くらい。

カラオケとかバッティングセンターに行きます。映画見たり買い物したりする時には、2時間くらいかかりますが広島にも行きます。

——家族構成は？

いけ 父親と母親と猫ちゃん。にゃん助。

——お父さん、お母さんに伝えたいことはある？

いけ 学校に通わせてもらったり、お弁当作ってもらったり、感謝しています。いろいろアドバイスしてくれるけど、最後は自分で決めさせてくれるのがありがたいですね。

——反対に言いたいことはあります？

いけ 記憶力に問題が…(笑)。前に話したのに、よく「聞いてない」と言われるのは納得がいかない。

——自分の欠点ってなんだと思う？

いけ めんどうくさがりなところ。提出物とかサボりがち。

——自分の好きなところは？

いけ 気遣いができるところかな。けっこう周りのことよく見てるんです。

JR備後庄原駅にて

【後記】通りかかった友だちに突っ込まれてちょっと照れながらも、しっかり話を聞かせてくれたいりやん。質問にもほとんど悩むことなく即答する様子に、ふんだんからいろいろ考えているのかな?と想像できる取材でした。



いろんな人が山と関わる接点を、
いっぱいつくっておきたいんです

木を育てる [広島県]

Team:
FOREST
WORKER

取組み

2

子どもたちとつくる ワイルドな公園



地元企業が持っていた土地を「有効に使えば」と相談を受けて、現在公園に開拓中。平らにキレイにするのではなく、森らしさを残しつつ安全に遊べる空間を作っている。広葉樹特有の明るい森に注目。

取組み

1

切り株までたどれるウッドプロダクト (ヒバリングス)



間伐などで切られた樹木を、コースターやブックエンド、椅子などに加工したプロダクト。製品に入っているIDをウェブで入力すると、どこでどのくらいの期間育ってきた木なのかを知ることができる。

未来を育てる

現在フォレストワーカーでは、「森と関わる人数を増やす」さまざまなプロジェクトに取り組んでいる。例えば、間伐材などを使った「ヒバリングス」というプロダクトは、それぞれの製品について1Dを入力すると、どこで育った樹齢何年の木なのかを知ることができます。自分の手元にある製品が、庄原の森とつながっていることを理屈抜きに体感できる。間伐材を有効に使うことで、新しい価値が生まれる。また子どもたちと一緒に、山を整地して公園を造成するプロジェクトも進行中だ。きっとかけとなつたのは、植物大好きメンバーの伊藤さんが、かつて家の裏にひいおばあちゃんと植えたドングリが、実を落とすまでに成長したことだ。 「子どもたちと育てて、木を植えられるのでは?」というアイデアから子どもと一緒にドングリを拾い、発芽させ、育てた苗木を、この秋には公園に植える予定だ。これらを田村さんは「切らない林業」と表現する。「自分が関わった森には愛着が湧きます。自分の植えたドングリの成長を見守りに、遊びに来る子もいるでしょう。森に関わった記憶から、いつか林業を仕事を選ぶ子も出てくるかも知れません」。

国土の3分の2が森林に覆われている日本では、本当は林業を無視して、生活は成り立たない。フォレストワーカーは、さまざまな人が山と関わる接点を増やすことで、林業が長く続いていく仕組みを考えている。「うまくいかないと、面白くなくてやめちゃうでしょう。どうしたら面白く続けられるかが僕たちの考え方だよね」と田村さんは笑った。



山口市から新作が誕生!



許家維 + 張碩尹 + 鄭先喻《浪のしたにも都のさぶらふぞ》(2023)／
北九州門司での制作の様子／撮影：山中慎太郎 (Qsymu)

03

気鋭アーティストたちと 生み出すコラボ作品

アーティストとともにゼロから作品をつくり上げ、発表することにこだわるYCAM。国内外のさまざまなアーティストとYCAM内部の研究開発チーム「YCAM InterLab」が協働し、先進的な表現の数々を生み出してきた。昨年手がけたのは、台湾を拠点に活動するアーティストの許家維さん・張碩尹さん・鄭先喻さんとのコラボ作品。人形浄瑠璃とCGアニメーションを組み合わせ、映像とライブパフォーマンスによって日本と台湾の歴史を描き出した。

スピーカーは最大64個！



「Audio Base Camp #1」(2018)／撮影：谷康弘

国内屈指の音響環境で味わう 極上のリスニングイベント

シアタースタイルのスタジオに大規模スピーカーを設置し、テーマ別に多種多様な録音物を紹介。大音響に身を委ねることで、「聞く／聞く」という日常的な行為を捉え直すきっかけに。

05

全ての種目が世界初！

新たなスポーツをつくり 育てる最先端の運動会

ゲームクリエイター犬飼博士さんの発案で始まった共創型イベント。開発(デベロップ)と実践(プレイ)を繰り返す「デベロッププレイ」という手法で市民が新しいスポーツを考え、運動会の種目として楽しむ。

04



「YCAMスポーツハッカソン 2018」+
「第三回 未来の山口の運動会」(2018)／撮影：塙見浩介

「知の巨人」磯崎新の名作建築！



(Growing) 街で育てる。街で育つ。【山口県】

03

坂本龍一の作品を名跡で展示！



「Yamaguchi Seasonal 2024」坂本龍一 + YCAM《Forest Symphony》／
撮影：山中慎太郎 (Qsymu)

01

山口市内各所で展示し 街めぐりの新しいカタチを提案

YCAMで制作・発表してきた作品を市街地や史跡で公開する「Yamaguchi Seasonal」は、アートを通して街の魅力も再発見できる企画。その一環として、今年は2013年に発表した坂本龍一さんのインсталレーション作品《Forest Symphony》を常栄寺にて展示。雪舟庭で名高い禅味あふれる空間に、樹木の微弱な生体電位を用いて制作された森の交響曲が響き渡る。

02

グッドデザイン賞 受賞！

YCAMから全国に広がる 遊び場「コロガル公園」シリーズ

スロープなどの物理的環境と、スピーカーなどのメディア的環境をシームレスに併設し、遊びを通じて自ら創造する場としてデザインされた「コロガル公園」。全国的な評価も高く、シリーズ化して東京と札幌でも実施している。2013年に屋外で展開した「コロガルパビリオン」は、あまりの人気に存続運動が勃発したほど。今年は〈山口井筒屋〉内で開催する。



「コロガルパビリオン」(2014)

**YCAMが
街を
変える!?**

山口情報芸術センター [YCAM] (通称・ワイカム)とは？

2003年開館のアーティセンター。展示空間の他に市立図書館や映画館などを併設し、アートと社会を結ぶメディアの実験場として、多彩なイベントや教育プログラムを実施している。

山口発のアートな仕掛けは クリエイティブで、オリジナル

今や日本のアート拠点の一つとなった山口市。その立役者が、唯一無二のコンテンツを発信し続けるYCAMだ。世界的アーティストとのコラボから革新的なイベントまで、街の個性を育てる独自のアプローチを紐解く。

TEXT_ 片桐絵都

NEW

YCAMが街の人たちを巻き込んだ
アートプロジェクトをプロデュース中!?

Q7. どうして「アルスコレ」では“楽しむ人”が育つの？



宮本さん（20代・大学院生）

「without records」コース受講

伝説のバンドが誕生!?

大学院で生成AIによるアート制作を研究する宮本さんは、YCAMが大友良英さんと2008年に手掛けた『with out records』をリアレンジして展示するプログラムに参加。プロのアドバイスで音の捉え方が180度変わり、自分でも音で街と人をつなぐアートパットができるなど、フィールドレコーディング企画を発案。街の音を組み合わせた楽曲を商店街で演奏した。参加者たちの達成感もひとしおで、「次は全国ツアーだ!」と意気込むメンバーも。



おちさん（40代・主婦）とひがきさん（20代・大学生）

「商店美術館」コース受講

アツい議論に感動

山口市中心商店街の店舗を美術館に見立て、山口にゆかりのあるアーティストの作品を展示するプログラムに参加したおちさんとひがきさん。作品から連想した言葉をキャプションにして展示することになり、効果的な展示方法や最適な言葉選びについてSlack上で議論を交わした。普段の生活ではなかなか出会う機会のない主婦と大学生がお互いを尊重しながら意見を出し合い、建設的に物事を組み上げていく美しさに、YCAMスタッフも胸を打たれたという。



※コース内容は年度によって異なります。

“楽しむ人”を育てる やまぐちアートコミュニケータープログラム 架空の学校「アルスコレ」ってなに?

教えてくれた人



街とアートの翻訳家

西 翼さん
海外放浪後、多摩美術大学に入学し、在学中にYCAMスタッフに着任。館外での展示企画や人材育成プログラムを担当。



街の賑わいをつくる人

三宅航太郎さん
アーティスト活動を経て鳥取で二つの宿を運営。県内外の文化的なプログラムにも携わり、2022年に個人事務所〈MAA〉設立。

Q1.

「アルスコレ」ってどういう意味?

A. アートコミュニケーターを育成するプログラムで、街全体をキャンバスに見立てた架空の学校がコンセプトです。名称の由来は、アートの語源である「アルス」と、スクールの語源で、創造するための余暇という意味を持つ「スコレ」。アートを媒介する活動の一部として、仲間と過ごす余白も提供したいという思いを込めました。(三宅さん)

Q2.

なぜアートコミュニケーターを育てるの?

A. 僕たちスタッフだけでなく、一般の人にもアートの媒介役を担ってもらうことで、アートと街の接点が増え、新たな視点を生み出せると考えたからです。この活動がきっかけとなって、新しいことにチャレンジしていく人が増えたり、街により複雑なレイヤーが生まれていくといなと思っています。(西さん)

Q3.

どんなメンバーがいるの?

A. 世代も肩書きも居住地もさまざま、普段出会わない人同士がプログラムを通じて仲間にになります。例えるなら、学校の放課後のようなイメージ。このムードが街全体にも広がっていけば面白いなと思います。(三宅さん)

Q4.

どんなことをしているの?

A. アーティストと展覧会をつくったり、コミュニケーションスペースを運営したりと、自由度の高いコースを設定しています。活動を通してメンバー同士で自然と影響し合うので、僕らは信じてできるだけ委ねたいと思っています。いろんな角度から楽しんでくれたら嬉しいですね。(西さん)



三宅さんが立ち上げた鳥取県湯梨浜町のゲストハウス「たみ」。オープンをきっかけに周囲に面白い店が増えて、彩り豊かな街に。



「アルスコレ」に関わる多彩なスタッフたち。

Q5.

行政と一緒に進めているってホント?

A. はい、街の活性化プロジェクトの一環として、山口市の担当部署とYCAMが協働して実施しています。挑戦的な部分は、これまでYCAMが培ったクリエイティブなノウハウや人脈を街づくりに応用している点。ですが、地域振興の一般的な評価基準だけではノウハウを活かしきれないという課題も。そこで、目指すのはまず「人が育った結果、街も育ち、面白くなることだ」という共通認識をしっかりと持った上で進めています。その結果、さまざまな面で街が活性化されると理想的です。また、展覧会などのメイン会場となる山口市中心商店街の協力も不可欠です。(西さん)

Q6.

「アルスコレ」は人と街をどう変える?

A. 僕は以前、鳥取県でシェアハウス・カフェ・ギャラリーが併設した「たみ」というゲストハウスを立ち上げ、運営していたのですが、毎日知らない人を宿泊者として受け入れていく中で、人間そのものを肯定するような感覚が生まれました。アートコミュニケーターも多くの人と接するので、アーティストや多様なメンバーと関わる中で、他者を受け入れる意識が芽生えればいいなと思っています。とはいえ、「こう変えたい」というゴールは設定していません。ゴールを決めると作業のようになってしまって。「よくなつた」という一方的な物差しも個人的には好きじゃない。街の変化って意識の問題だけの気もしていて、意識が変わればいつもの場所が違って見える。「アルスコレ」に携わっていると、僕も街の常連になれた気がするんですよね。YCAMスタッフも好きだし、メンバーと話すのも楽しい。一人ひとりの豊かな体験が広がることで、街の新しいカタチが浮かび上がってくるのではないかと思う。(三宅さん)

育てる人いれば、育てられる人あり。
そして育てられる方にも、意見がある。
育てられ代表として、各地の子どもたちに
インタビューを行なった。

Name
せいめい

Age
11才

School year
小学五年生



学校ルールの決め方がおかしいと思ふ

— 今住んでいる街はどんなところですか？

せいめい 上古熊。山と川と神社がある、平凡なところです。

— よく行く場所はありますか？

せいめい わっか屋（自然食品屋）とラスティック（本革専門店）。学校から帰ったら、荷物を置いてちょっとしてから行きます。お小遣いの大体はわっか屋かラスティック。

— お店のどういうところが好き？

せいめい 流れてる音楽、光、店主のまいさんとの話が楽しいとか。なんか、時間を忘れて話せるんです。

— まいさんとはどんな話をしますか？

せいめい 好きな本を紹介したり、今習っていることを披露したり。ものを書いてたんですけど、続かなかったんですけど、それを見せたり。まいさんからは、食材の使い方とか、この前はアイヌの民族衣装のことを教えてもらって、アイヌいいなって。

— 最近自分で流行っていることはある？

せいめい 料理とか絵を描くこととか器とか、たくさんあります。少し前はパン作り。ドイツパンが憧れなんですけど、その黒い感じになってるかなってオーブンを開ける瞬間が好きです。

— 反対にあまり好きじゃない時間はありますか？

せいめい 学校の整列。ルールの決め方が変だと思うんです。ちゃんとしてる人はそういうルールがなくともできるのに。

— たしかに。はっとさせられました。家族構成は？

せいめい お父さんとお母さんと3つ上の兄ちゃんと4歳の弟です。

— それぞれに伝えたいことはありますか？

せいめい お母さんはまともな人間にしてくれてありがとうございます。兄ちゃんは、自分と考え方が違うけど2人で協力するいろんなことに気付けるから感謝してる。お父さんは家を支えてくれてありがとうございます。弟は……まだわからないです。

— 自分の直したいところは？

せいめい 何か新しいことを始めて途中でもほっぽりだすところ。最初に材料をいろいろ集めたりするんですけど、最後までやり遂げた前例があんまりない。

— 自分の好きなところはどこですか？

せいめい みんなから言われるのはセンスがいいとか、絵が描けるとか。自分では、うーん、まともっていうか、いろんなことに興味があるところ。

わっか屋にて

【後記】 この日もわっか屋で新入荷の氷砂糖を見つけると「これなんですか！」と目を輝かせながら質問していたせいめいさん。自ら新しい道を切り開いていく姿がとてもまぶしかったです。今年は梅シロップに挑戦するそう。



さきさん（10代・中学生）
「tog」コース受講



自作ケーキでおもてなし

中学生のさきさんが参加したのは、「アルスコレ」の活動拠点であるスペース〈tog〉をカフェ空間として表現するプログラム。コーヒーを飲んだことすらなかったさきさんは自発的にカフェに通い、コーヒーに合うケーキを考えて自宅で何度も試作。完成した2種類の手作りケーキを訪れた人にふるまい、〈tog〉に笑顔があふれた。



みんな誘い合ってイベントや食事にも行ってるみたい



西村さん（50代・公務員）
マイプロジェクト「AEL出版」

空想が止まらない

公務員の西村さんは「アルスコレ」の中で、自主企画として出版プロジェクトを3年連続実施。普段は物静かな西村さんが自ら手を挙げ、YCAMともゆかりの深い坂本龍一さんをテーマにした雑誌や展覧会を企画する架空の出版社を立ち上げた。初年度は編集会議だけだったが、実際に雑誌を制作したり、オペラ仕立ての展覧会を計画したりと、年々企画が飛躍している。



作家／ひがしちかさん
Photo: yoko ohata

2024年もアーティストや街の人とさまざまなアートを展開予定！

今年の「アルスコレ」は3コース構成で、山口駅前にある2階建ての建物〈tog〉を多目的スペースとして活用する「HOME」コースから、梅田哲也さんに併走して新作展覧会を運営する「PLAY」コース、ひがしちかさんと「生活芸術」をテーマに制作・発表を行う「LISTEN」コースまで、アーティストとのコラボ企画も充実。7月中旬以降、街中で展覧会を実施したり、お店がオープンしたりする予定です。どうぞお楽しみに！



アーティスト／梅田哲也さん
Photo: Tanaka Chihiro

A2.

なんでもできる
場所があるから

いつもの場所が
キャンパスのように
なるのが面白い



西村さん（50代・公務員）
マイプロジェクト「AEL出版」

空想が止まらない

公務員の西村さんは「アルスコレ」の中で、自主企画として出版プロジェクトを3年連続実施。普段は物静かな西村さんが自ら手を挙げ、YCAMともゆかりの深い坂本龍一さんをテーマにした雑誌や展覧会を企画する架空の出版社を立ち上げた。初年度は編集会議だけだったが、実際に雑誌を制作したり、オペラ仕立ての展覧会を計画したりと、年々企画が飛躍している。



ようこそ！最先端の「おいしい飲み」が育つ
ミクソロジーの世界へ

ただ美味しいだけじゃない
「環境に優しく、カジュアルに」
ほろ酔いの中にもなびがある



野村さんは食材をムダにしない。足が早い生ものは旬じゃなければ使わず塩漬けやドライ加工に。保存性を高めて使い切り、捨てる場合もコンポストで堆肥にして土に還す。野村さんの場合、こうした環境に配慮するSDGsの考え方を肩ひじ張らず、カジュアルに伝えるセンスがズバ抜けている。だからどのドリンクもただ「美味しい」「楽しい」だけじゃない。ほろ酔いの中にもちゃんとまなびの体験がある。



リユースで育む
NO! 食品ロスの価値観



フードマイレージ削減で育てる
SDGsな未来

ボタニカルを加え蒸留することで香りづけされた水を活用。多彩な輸入リキュールに頼らず作るカクテルでフードマイレージ削減を。一番人気は福岡の酒粕焼酎を使ったエスプレッソカクテル(1400円)。

**古い知恵と新しい技術で
日本のいいものを再構築**

野村さんがかつて衝撃を受けた店の一つが「noma(ノーマ)」。食材の乏しい「デンマークにありながら地元食材の魅力を再構築し、洗練された料理で世界を驚かせたレストランだ。〈noma〉のDNAを受け継ぐ料理人が「The Certain Bar」を訪れたことも。今や情報交換を重ねる同志、彼らが、北欧にしかないもの、を強みにしたように、野村さんも日本の自然や食の知恵をルーツにカクテルをつくる。希少な在来品種や近所で採れたハーブや果実、木の皮や葉っぱなどなど。これらを酒に軽く漬け込んだりじっくり発酵させたり、時には遠心分離機や液体窒素など分別調理のテクニックも駆使して濃密な香りや旨みを抽出する。実験的な工程のひとつがセラスの見せどり。こうして日本のあるものを遺していくらしい、アップデートすれば世界に自慢できる文化として循環させられますよ、絶対」。



角打ちカルチャーが生まれた小倉を中心に、北九州の酒場は今も進化中！
たとえば、ミクソロジーで
カクテルの常識をアップデートする
このBARは、世界とつながる
刺激的な空間。
いろんなモノ&コトが育ってる。

TEXT_ 重村直美
PHOTO_ 白木世志一 EDIT_ 後藤麻与

「日本のバーは引き算だけど海外のバーは足し算。僕はどちらの良さも追求したい、どちらも根っこは同じで、目の前のお客さんをいかに楽しませるかだと思います」
ミクソロジーに正解はない。作り手も飲み手もハマると底なしのディープな沼だ。日本、特にローカルでは珍しいスタイルだけど、じつはこうじううややかなバーがもはや海外では主流。〈The Certain Bar〉も世界と繋がっていますよ、絶対」。

**キタキューから広がる
新しい「飲み」と「まなび」で
人と人のリレーションを育てるBAR**

世界どつない ミクソロジー・バー

「やつこ見つけた、このじゅうバーを探してたんだー」と、外国人が田を輝かせる。ミクソロジーを追求する「The Certain Bar(ザ・サーター・ウ・バー)」。ミクソロジーとは「科学するミクスル」という意味で、「さまざまな素材を混ぜながら複雑な味や香りを作り出すスタイルのこと。香水の調合や音楽のサンプリング」と似ている。

たとえば、「メスカル+ジン+甘口・シナリー・黒」とんにく+沖縄産パイ」。この足し算からどんなカクテルができるのか、考えてみてほしい。「……想像つかない」と頭を抱える客の前に「うちにはそういうバーです」と不敵な笑みを浮かべるのが、店主の野村周平さんだ。北九州市は小倉で生まれ育った野村さん、カウンターカルチャーにしびれた10代には現在店を構える京町の音楽系クラブでアルバイトも。20代に入り移住先の名古屋でバーの仕事と出会い、海外のバーカルチャーを積んで帰国し、今度は東京のオーセンティックなバーで日本流の「バー道」を学んだ。

「日本のバーは引き算だけど海外のバーは足し算。僕はどちらの良さも追求したい、どちらも根っこは同じで、目の前のお客さんをいかに楽しませるかだと思います」
ミクソロジーに正解はない。作り手も飲み手もハマると底なしのディープな沼だ。日本、特にローカルでは珍しいスタイルだけど、じつはこうじううややかなバーがもはや海外では主流。〈The Certain Bar〉も世界と繋がっていますよ、絶対」。



現在進行形!
いつちゃん新しい
異文化

コラボレーション

公園に来たら絶対飲む
ご当地ドリンク考えたくて

和布刈ぽいの入れて
新しいラムネ作りましょう



The Certain Bar
JR小倉駅前の繁華街、古い
雑居ビルの中のラボ的バー。
あえて飲まないという「ソーバー^{キュリアス}」な人々にも人気。



Pic Mekari park

目前に海が広がる和布刈公園内の古い機関車両を活かしたパン屋兼カフェ。海を見ながら楽しめるメニューを提供中。

今年でオーブン6年目の〈The Certain Bar〉。店主の野村さんも濃いけど、集まるお客様も負けてない。何かを生み出すとか育つことに関心のある人が多いと見た。「県外の方も多いですよ。地元の文化をアップデートしたい、田舎でバーをやりたいけど……とかね。みんな壁をぶち破るヒントを探してる」と野村さん。見知らぬ同士で意気投合(気づいたら店がミーティングルームと化してプロジェクトやコラボが動き出すケースも珍しくない。

店はコラボが動き出す
ミーティングルーム

コラボ仲間のひとり、建築家の今富佑樹さんは〈noma〉に近い世界観に触れられた。調べてみると、いつも野村さんのラボに遊びに来ている感じ。この店も店から生まれる出来事も、全体が彼のアートワークみたいなものだから。

そう、野村さんの活動はバーの中だけじゃない。口ナ禍中には地域づくり団体も運営する今富さんとタッグを組み、地元に根差したドリンクの製品化を企画。2022年に北九州を拠点としたインディベント、

「ならふ」が生まれるまで

地域を盛り上げるドリンク

2024年の機内スペシャルドリンクも選ばれた。飲める店は〈The Certain Bar〉と、今富さんを中心とした有志が共同経営する客室カワエー(Pic Mekari park)のみ。7月に発売予定の第2弾は東京のバーにも進出しそうな勢いだ。

ドリンクカバードリンクの再開発プロジェクトの一環として「ならふ#1新波」を発表。このドリンク、スタークリエイター社の「初日の出フライト」で、飲める店は〈The Certain Bar〉と、今富さんを中心とした有志が共同経営する客室カワエー(Pic Mekari park)のみ。7月に発売予定の第2弾は東京のバーにも進出しそうな勢いだ。

「ならふ#1新波」

潮の薫りがするノンアルコールの炭酸飲料。香りの決め手となる素材には関門産の干しワカメを使用。爽やかな酸味やのど越しの良さをもたらすのは上毛町産のゆずや八女産のイネ科の植物・ペチバーレ。〈The Certain Bar〉では「ならふ」を使ったカクテルも楽しめる。



和布刈神社のお供え物と同じ
関門産のワカメを使用!



カクテルを楽しんだら
店を出て進化する小倉の街の
飲み文化を味わおう

小倉は角打ち発祥の地。バツと飲んでバツと出る、街の酒屋で育った粹な労働者カルチャーは、野村さんが地元に戻ってきた頃は衰退する一方だったという。「せつがく発祥の地なんだから小倉の角打ち文化もアップデートしたい」。野村さんの想いには地元を愛する飲食経営者からも共感の声が。「角打ちの形だけ押借するんじゃなくて、今のライフスタイルにどういう在り方がいいのかっていうところをみんな考えて始めてる。この辺りもグラフトのジンとビールの専門店〈TAP TAP〉が運営する〈ハックノモリ〉や、和酒の角打ち〈MELKFED〉とかいろいろ増えているから、ハシゴしてそれぞれの個性を楽しんでほしい。1杯ずつパツと飲むだけでもいいんだから」。うーん、想像するだけでワクワクする小倉角打ちナイト。どこから回ってもきっとめちゃくちゃ面白い夜になる。



The Certain Bar

福岡県北九州市小倉北区
京町3-6-23 有真ビル2階
TEL: 093-513-5220
営業: 火~土 17:00~26:00、
日 24:00 休: 月

育てる人いれば、育てられる人あり。
そして育てられる方にも、意見がある。
育てられ代表として、各地の子どもたちに
インタビューを行なった。

ピアノやめるなら
ダンスもやめなって。
だからがんばる。

Name

ウウア

Age

9才

School year

小学4年生

—図書館が好きな場所と聞きました。本が好きですか?

ウウア 本ではなくて、同じ場所にある歴史資料館に来ます。遠賀川にすむ鳥とか動物に興味があるから。

—いま一番楽しいと思うことは?

ウウア ダンス。ダンサーの名前は又エノです。

—私はできないからだけど、ダンスは難しくない?

ウウア そう思うこともある。いまなんパーセントの踊りで、100パーセントがどんな踊りとか考えると難しい。

—運動神経はある方ですか?

ウウア 鉄棒がぜんぜんできん。けど、こわいとかはない。走るのは好き。

—ほかにも楽しいと思うことはある?

ウウア ピアノ。ダンスよりも前に始めた。あるときママとパパにピアノをやめたいと話したら「ダンスもやめさせる」って。だからいまもがんばってる。

—これはやりたくないなと思うことは?

ウウア 夜寝ること。

—自分の好きなところ、嫌いなところは?

ウウア ポジティブ。嫌いなのはマイペースすぎるところ。

—どんなときに自分が嫌だなと思う?

ウウア 授業中にやりたいと思ったことばかり先にしてしまうとき。

—学校の宿題はすぐにやる人? 後にまわす人?

ウウア できるだけぱッと終わらせる。



—宿題は先なんだ。しっかりしてるね?

ウウア これはしないってなったら、ほかができなくなります。

—一番の仲良しはだれですか?

ウウア いとこのアノン。ここにも、つい最近二人で来た。学校も休みもダンスも一緒に、いまは髪型も同じ(笑)。ウウアが先にこの髪型にしどったんやけど。

—お父さん、お母さんに感謝することは?

ウウア ハハは笑ってくれる。ママはおいしいご飯を作ってくれる。

—反対にちょっと言いたいことはある?

ウウア 5時までの門限を長くしてほしい。

—家で好きな場所はどこ?

ウウア なんでもできる自分の部屋が好き。ゲームとかケータイを見るとかいろいろ。

—自分らしさを出すために大切にしていることは?

ウウア 服。いまは白や黒でそろえるのが好き。

—将来はどんな風になりたいですか?

ウウア ママ。ママがダンスの先生で、自分もかっこよくなりたいなって。

水巻町図書館にて

【後記】 一緒に来たお父さんに「困ったら助けてほしいし、少し離れてほしい」と話していたウウアさん。最初は言葉少なめでシャイな子だったけど、すぐさまその印象は一変。自分の世界を持った、芯のある人でした。

キタキュー來たら、まずは飲まなね!

北九州産ホップで地ビールカルチャーを育てる



今年ももうすぐ解禁! 「Hibiki Fresh Hops 若松エール」は、北九州産ホップを使い、日本一に輝いた(MOJIKO BEER)の醸造部長・峰松幸之助さんが醸造を手掛けた、ご当地自慢のクラフトビールだ。

誕生のきっかけは2019年、峰松さんのものに届いた「ビオトープで育てたホップでビールを作つてほしい」という若松区民からの依頼だった。この時のホップはあまりにも収穫量が少なく、残念ながら製造には至らなかったそう……なのだが、これをきっかけに依頼主は本腰を入れて(響灘ホップの会)を発足。会員を募り、栽培から販売まで一気通貫で行える体制を調えていった。

会に参加した峰松さんは当時こう

振り返る。「会の発足以降、学校の緑のカーテンはホップになり、7月の暑い盛りにはボランティアの方々が畑で収穫を手伝うように。ビールが完成したら子どもも大人も一緒に酒屋めぐりを楽しんでいる。文化ってこうして育っていくんですね」。今やホップの栽培エリアは若松から門司、八幡、小倉へと拡大。2023年度のビール生産量は初年度の約3倍、

約1万2000本に伸びた。峰松さんはこうも話す。「活動で生産者の方とお会いするようになり、地元のミカンを冬限定ビールの香りづけに活かすようになりました。これまでずっと捨てられていた青い摘果ミカンも酸味が爽やか、夏のビールに活かせそうです」。

さて、ホップは今年も北九州市の各地で順調に生長。収穫時には体験ツアーなど市民参加のイベントも盛り上がり、例年どおりお盆前に仕込みが完了。いよいよ9月中旬頃には(MOJIKO BEER)のレストランをはじめ市内の飲食店や酒屋で、「Hibiki Fresh Hops 若松エール」の販売がスタート! フレッシュホップのみずみずしい香りと軽やかなのど越しをぜひ楽しんでほしい。

今年も!
フレッシュホップビール
はじめました



MOJIKO BEER

門司港近くに構える醸造工場でヨーロピアンスタイルを踏襲したビールを製造。この工場で峰松さんが醸造を手掛けた「ヴァイツエン」は全国の地ビール品質審査会で最優秀賞を2年連続受賞。(ピアレストラン門司港地ビール工房)福岡県北九州市小倉北区米町1-3-19

エリア拡大中!
KITAKYUSHU
HOP MAP

- 1 若松田中農園
- 2 韶灘ビオトープ
- 3 北九州市立赤崎市民センター
- 4 北九州市立大学ひびきのキャンパス
- 5 自由ヶ丘幼稚園
- 6 折尾幼稚園
- 7 日明浄化センター
- 8 古森農園
- 9 坪根農園
- 10 障害者支援施設母原



夏は学校の
緑のカーテンもホップに



9月にはできて
若松エールの試飲会を開催!

YMfgの あした考

第2回 [子育て、街育て]

TEXT_ 浅野佳子
ILLUSTRATION_ 竹田嘉文

いまの子育て環境に、
それとも不満足?
満足してる?



山口県周南市では、17カ所子育て支援センター・ひろばを開設。周南市がリリースしたアプリ「ひはぐby母子モ」では、子育て支援センター、市内の病院、幼稚園、保育園など子育てに関連する施設が地図で一覧できる。



北九州市立響灘緑地 グリーンパーク

日本の都市公園100選にも選ばれた北九州市最大の都市公園。ギネスに認定された100人乗りの「世界最長ブランコ」などユニークな遊具も。／福岡県北九州市若松区大学竹並1006 / Instagram:@greenpark2525

内山——私は育休中に市の子育て支援センターを利用していました。特に0歳児の時は不安なことも多く、同じ立場の保護者と話すことができて、ほっと安心できる場所でした。足型を探つてくれたり、読み聞かせしてくださったり、楽しめる

イベントもあります。
——ちなみにYMFGの取り組みで活用したものはありませんか?
丙——私はまだ社歴が浅いので、ぜひ教えてほしいです!
橋本——いまYMFGを挙げて男性の育儿休業取得を推進していますよね。私は取れなかつたのですが、後輩にはぜひ取得してほしいです。職場には取りやすい雰囲気があるので、業務を的確に切り分けてフォローできる仕組みを作ればぐつと取りやすくなるはずです。

内山——私はYMFGの事業所内保育所である「わいわいスクール」を利用しています。行員の子どもはもちろん地域のお子さんも入所でできます。なんといっても園の先生方が銀行の仕事を事情をよく知つてくださっているので、仕事との理解で園を選ぶことは少ないと思いまが、分かつてもらえていると仕事しやすいと実感します。

子どもが 生まれて、 街の見え方つて 変わった?

丙——変わりましたね。自分一人の時はなにをするのも勝手でしたが、いまは当然そうはい

たちが住む街かは、子育て中は特に気になるところですね。内山——子どもがいると、街の人から声を掛けられることが増えますよね。いろいろと考え、広島市の北部の西風新都（せいふうしんと）というエリアに住んでいます。新興住宅地で病院もあり、暮らすエリアとしては安心で満足度があります。ですが、子どもの経験を増やすには、子どもが活動できる場所が不足していると感じています。

橋本——90%くらいの満足度でしょうか。私の住む北九州市の学術研究都市ひびきのというエリアは新しい街で、住民も多い。立場が近いので悩みなども似ていて周りに相談しやすく、街がコミュニティとして機能している実感があります。丙——それは私の周りも同じです。挨拶も交わし合え、見守ってくれる人の目がある感じで、安心感があります。内山——周南市は自然と産業が調和した街です。徳山駅周辺の中心市街を離れて、自然豊かな場所がたくさんあります。周りには幅広い年代の方が住んでいて、交流があるのでいいなと感じています。

橋本——日常生活の利便性と、どんな人



山口銀行
カスタマーサービス部ASC徳山
内山英夏
1歳の男の子の母

データ・キューピック(広島)
丙瑞
4歳の男の子の父

北九州銀行ひびきの支店
橋本祐太
小3女の子、小1男の子の父

集まつたのは、仕事に子育てに奮闘する、YMFG社員の3名。今号のテーマである「育てる」にちなんで、子育てしやすい環境を考えることから、話は街をどう育てるかにまで広がった。

族で食事ができ、遊び、「通りのもの」が買えるなんて本当に便利です。
——わかると頷く

内山——これはみなさん言わずもがなでしょうが、ショッピングモールは子どもが生まるほどあります。我が家では市の人と触れ合って、情緒豊かに育つてくれたらいいなと思っています。

丙——それを除けば(笑)、わが家では市の動物公園」「植物公園」と「こんちゅう館」の年間バスポートを購入しています。子どもが興味を持ってくれればいいし、休日のお出かけ先としてもおすすめです。まさか自分が昆虫を見に行くようになるとは思いませんでしたが、楽しめますよ!

丙——我家の独断で選んだ、イチオシのショッピングモール
このサービス、この取り組み、愛用中!

橋本家 →〈イオンモール八幡東〉
専門店が充実している他、隣接地にアウトレット、科学館、アミューズメントパークがあり、大人も子どもも一日遊べるところが魅力です。／北九州市八幡東区東田3-2-102

丙家 →〈THE OUTLETS HIROSHIMA〉
約230以上の店舗数を誇る施設で、一日過ごしても飽きることなくショッピングやグルメを楽しめます。／広島市佐伯区石内東4-1-1

内山家 →〈ゆめタウン徳山〉
1歳の息子は2階にある壁掛けのボードがお気に入りで、つかんで回したり動く様子を見たりして楽しんでいます。フードコートには小上がり席もあり、子どもとゆっくり食事をすることができます。／周南市青山町1-18

広島市森林公園 こんちゅう館



約50種類、1000頭の生きた昆虫に出会える専門施設。年間パスポートは、大人1560円、シニア(65歳以上)及び高校生510円、中学生以下は無料。／広島県広島市東区福田町藤ヶ丸10173
Instagram:@hirokon_insect

橋本——「北九州市立響灘緑地グリーンパーク」という公園は、大きな芝生広場あり、動物と触れ合えるエリアあり、アクティビティありと、いつ行っても何度も楽しめる楽しい場所で、入場料も150円ほど。子どものいるご家庭は、市の施設をうまく活用すると、生活が充実しますよね。

内山——周りの方からは保育園に入れないつた点が気になるように。歩道が狭い道では実際に自分で歩いてみると、車との距離が近くて怖いなと思うことがあります。子ども自ら線に沿って、街の見え方が変わりました。

また、子どもが生まれて周囲との接点が増えたと感じます。例えば、困った時に助けていただいたり、大丈夫ですかと優しいお声掛けをいたしたり。

橋本——わかります。自分一人の時と違つて、街との関わりは断然増えましたね。これは意外な発見だったかもしれません。最初にお話しした通り、うちの街は歴史が浅く、伝統の祭りのようなものがありません。そこで自治体やPTAなどの有志が集まつたまちづくり協議会が、地元に新しい秋祭りを作っているんです。誰でも参加でき、幅広い世代と交流でき

ます。子どもたちの将来を応援する奨学金や、子ども向けの地域のイベントを金銭面でサポートすることは、積極的に行ってもいいと思います。子どもは将来そのもの。大きくなつた後に「YMFGにサポートしてもらつたな」と感じてくれたら、企業価値も上がりそうです。

丙——私は子どもへの支援はもちろんですが、原点に立ち返つて地域の企業の活動を後押しすることが、遠回りに見て、確実に子どもを育て、街を育てることにつながる気がしています。街が元気になれば、それは必然的に地域に暮らす人を元気にしますから。



わたしを 変えた 住空間

理想の暮らしを求め、
三都へ移住した人々を訪ねました。



長田涼さん・果穂さん
(30代・《ト暮らし》共同代表)

- 夫婦ともにコミュニティに関わる仕事
- 2022年に東京から1ターン
- 友人の紹介で知り合った(NIPPONIA 鞆港町)の元支配人夫婦が、鞆の浦では貴重な賃貸の空き家を探してくれた
- 同じ夫婦に住居とは別の物件も紹介され、古民家カフェ(鞆の浦ありそろう)をオープン

Instagram: @nagata.ryo / @cahochin

繋がりを大切にしたい

カフェで提供する商品は友人の手がけたものが中心。「コーヒーも友人が焙煎した豆で淹れています」(涼さん)

街の資源を循環させる

カフェ内では、街で譲り受けた食器も古道具として販売。「歴史と文化を循環させていけたら」(涼さん)

見守られている安心感

毎日、道行く人と挨拶を交わす。「息子の名前を呼んでくれる方が高円寺時代の5倍に(笑)」(果穂さん)

友人に誘われて住み着いた東京・高円寺。コンパクトで人情味のある大好きな街だった。そんな街の景色が違って見え始めたのは、息子が生まれた頃から。もっと自分たちらしい子育てがしたいと、移住先を探して全国を巡った。そこで一際心惹かれたのが、鞆の浦の穏やかな海と温かい人。住人の協力で奇跡的に家が見つかり、タイミングよくこども園の入園が決まったことにも、縁を感じずにはいられなかった。

移住後、元遊郭の古民家を再生してカフェを始めた。新居づくりも進めていて、街の人々が集まるスペースを備えた住居にする予定だ。改めて、自分たちらしい子育てって何だろうと考える。家に住むというよりも、街に住むという感覚。この街全体を自分たちの“住まい”と捉えると、なんだかしつくりきた気がした。

Under Renovation

新居の外観。元クリーニング屋の建物を改装して、パン屋やワーカーショップも開ける土間付きの家に。この夏には第2子が生まれ、4人での生活が始まる。



鮮やかさに気分も上がる 「旬膳定食」

北九州銀行 福岡支店 西村絢子



45年変わらないレシピ 「オリジナルビーフカレー」

北九州銀行 筑紫野支店 外重 琢磨



すっぱさが クセになる 「ラーメン定食 (そば定)」

もみじ銀行 広支店 松尾優音



YMFGグループの社員が自分へのご褒美として利用する、知られざるランチの名店と一押しメニューを紹介。

PHOTO—衣笠名津美(山口県)、菅野亮(広島県)、岩原俊一(北九州)

山口県 まるまつ食堂

古民家をリノベーションした店内は洗練された温もりのある雰囲気。品数豊富な「旬膳定食」は満足感があり、旬の野菜を使った健康志向のメニューでありながら、自分では作れないようなおしゃれな旬菜に気分が上がります。日替わりなので飽きることなく、私はお店に行けない日もInstagramにアップされるメニューをチェックするほどです(笑)。

山口市黄金町11-13 okiza 1座

TEL: 083-922-5060

営: 11:30~17:30(14:00 L.O.) 休: 水

Instagram: @marumatsu_shokudou



北九州 千草ホテル ダイニングカフェチグサ

1914年創業の老舗(千草ホテル)。官営八幡製鐵所が1901年に操業開始なので、街の移り変わりを見届けてきたランドマーク的な存在です。「料理の千草」と称されるほど食で有名なホテルでもあり、カフェランチの時間は普段より気軽に利用できるおすすめ。特に45年間もレシピが継承されているオリジナルビーフカレーは濃厚で絶品です。

北九州市八幡東区西本町1-1-1 本館1F

TEL: 093-671-1131

営: 水~月 11:15~14:00 休: 火



あしたのランチ何食べる?

What will you have for lunch tomorrow?

ラブレター from ロンドン

はじめて北九州に訪れたのは東京の美大に通っていた2017年頃。いろいろあって心が荒れていた時に、友だちが「実家が教会なんだけれど来てみる?」と誘ってくれて。3週間くらい東八幡のキリスト教会で寝泊まりしていたんです。その期間で一番印象に残っているのが、教会の奥田牧師が理事長を務めるNPO法人〈抱樸(ほうぼく)〉の花見大会に参加した日のこと。桜が散った公園で大声選手権をしたのですが、優勝者は声が一番小さかったおっちゃん。大きな声を出した人が勝ちではないんだと驚きましたが、いわゆる一般的な基準ではない勝ち方があるってすごくいいなと思いました。しかも叫ぶ言葉が「やっぱ愛だね!」。40人くらいが輪になり一生懸命「やっぱ愛だね!」と叫ぶ様子を見て直感的にこの場所は自分にとって大切になるだろうと思いました。

その後、留学したロンドンでコロナ禍になり、一時帰国をしなくてはいけなくなったタイミングで、北九州で過ごした日々が忘れられず移住を決意。結局2~3年住んでいたのですが、教会と〈ギャラリーソープ〉がなかったらここまで長く居なかつたんじゃないかな。(ギャラリーソープ)は現代美術を扱うアートギャラリーなんですが、バーもあって、オーナーの宮川さんの人柄なのか本当にいろんな人が集ってくるんです。美術館の学芸員やアーティストたちが真剣に美術の話をしている横で、アートにそこまで関心のない人たちもびちび酒を飲んでいるような。その混沌さがすごくよくて、自分の居場所だと感じることができました。宮川さんの話もいつも適当でおもしろいし、ここに集まる人たちが好きで、暇さえあればギャラリーに行っていました。

小倉のクラブ〈サウンドスペースアルファ〉にも毎週のように通っていました。誰も知り合いがない状態で引っ越ししてきましたが、暗闇のなかで踊りまくっていたら知らない間にみんなと知り合いになっていました。大人になってこんな大切な友だちができるんだ、と思うような出会いが北九州にたくさんありました。

今はロンドンに戻りましたが、いずれ北九州に帰りたいと思っています。私にとって制作をする上で、1人で街を歩いたり、ただただ椅子に座ってぼーっとしたりする時間が必要なのですが、大都市だとそういう時間がなかなか取れなくて。北九州は、遊びと制作のバランスがちょうど良い。北九州で一人になりたいときは、紫川でビールを飲みながら考え方をしたり、24時間営業の居酒屋(白頭山)で本を読んだり。なんか、飲んでばかりですね(笑)。北九州の飲み歩きガイドとしてもぜひご活用ください。



教えてくれた人

石原 海 (いしはら・うみ)

アーティスト、映画監督。1993年東京都生まれ。ロンドン在住。ジェンダー、個人史と社会をテーマに作品を発表。ルイ・ヴィトンやナイキなどの広告映像の監督も担当。北九州で出会った人々をキャストに迎えた新作を2024年秋に発表予定。
「写真は世界で一番好きな北九州の焼肉屋さんで撮影しました」(海)

「北九州には、ここで生きたいと思える出会いと時間がある」



〈抱樸(ほうぼく)〉

北九州を拠点に、生活困窮者や社会からの孤立状態にある人々の生活再建を支援している認定NPO法人。
Instagram : @houboku.npo



〈ギャラリーソープ〉

1997年にオープンしたアーティストラン・スペース。国内外のアーティストの展覧会や音楽イベント、シンポジウムなどを開催。
Instagram : @gallerysoap.jp



〈サウンドスペースアルファ〉

2016年に閉店した小倉のクラブ〈ロックアローズ〉のオーナーであり自身もDJとして活動するyskが2018年にオープン。
Instagram : @alpha.kokura

ILLUSTRATION 黒木仁史

KITAKYUSHU 《安田尚平》

HIROSHIMA 《藤島孝臣》



グラス | 一輪挿し
〈吹きガラス工房Fuji321〉
Instagram : @fujisan2hon1



プラグとコンセントのオブジェ | 香水瓶
〈Studio Yo-toBee〉
Instagram : @sytbee_yass_mog

YAMAGUCHI 《ガラス工房〇(マル)》



岩国れんこん硝子 箸置きなど | 足つきボウル
〈いろやギャラリー〉
山口県岩国市横山 2-4-17

三都の 雑貨物語

色や形、製法も実に多彩なガラス工芸。透明で無垢な顔をしておきながら、奥深さを知つたら最後、あとはもう沼ののみ。なんて罪なヤツでしょう。三都でも、そんな危険(?)な香り漂うガラス工芸に出会えます。北州市を拠点に活動する安田尚平さんは、住宅の窓に使われるフロート板ガラスを素材に用います。独特の緑がかつた色合いは、岩国れんこん硝子のシパンジーが感じられ、実験的な面白さに満ちています。〈工房〇(まる)〉の齋藤裕史さんは、由香理さん夫妻が拠点としているのは、岩国れんこんの産地である岩国市。ガラスで風土を表現したいと、れんこんの収穫後に廃棄される残渣を活用して、岩国れんこん硝子を生み出しました。葉や根、花を灰にして原料に混ぜ込むと、あら不思議、まるで春の新芽のような若緑色に。れんこんをかたどったフォルムも心憎い演出です。沖縄で吹きガラスを学んだ後、地元広島で船木倭帆氏に師事し、廿日市市に工房を開いた藤島孝臣さん。ガラスとして珍しい色彩表現と、ひねりの効いたデザインにこだわっています。冬の朝の静けさを閉じ込めたような乳白色のグラスや、輝く海をイメージしたワイングラス風の一輪挿しなど、ロマンティックな世界觀にうつとり。うーん、三者三様でどちら魅力的。やっぱり罪なヤツです。

「三都の雑貨物語」では、毎号ひとつのテーマに沿って集めたものと、それにまつわるエピソードをご紹介。これは!という地元の名品があれば、Instagramの投稿からタグ付け#YMfgで編集部へご一報を。@ymfg_official



天球儀
〈安田尚平〉

N° 02 “技アリ”ガラスの世界へようこそ！

TEXT_片桐絵都 EDIT_後藤麻与

SAS2024で語られた、

26の未来

「スタートアップピッチ」や「体験ブース」では、県内外から集った26企業が自社事業をPR。ピッチ後には各ブースで人だかりができ、有名投資家が駆け寄る場面も。なぜ彼らの話が心を打つのか?それは、起業家自身の課題意識や好きなことへの情熱が原点にあるからに他ならない。

03. 起業家たちが描く未来に触れるから

PICKED UP from 2024



廃棄物をアート作品へ!
山口発のサステナブル事業
株式会社中特ホールディングスによる廃棄物アート事業。約400人のアーティストと共に、憧れられる「サステナブル」の実現に挑む。



企業が求める情報を先取り
原点は自身のモヤモヤ
時間とコストがかかる市場調査へのモヤモヤが原点。2万の事柄を網羅するアンケートとポイ活の導入で、大量のデータを先回りして収集。



「柔軟指」が人を支える
独自技術で産業界に貢献
3Dプリンターで作成する柔らかいロボットハンドツール、柔軟指。人の指のように対象物を握める独自技術で、産業界の自動化を促進する。

04. 地域で起業するための、最新ノウハウが学べるから



全国から集まったビジネスの先輩たちによるトークセッションも開催!



GiftXの飯高悠太CEO
スマート・ストロング・タイ(小さくて強いつながり)が鍵。CMよりも口コミの宣伝効果の方が圧倒的だ。自分の幸せや理想を掘り下げて事業をつくってほしい。



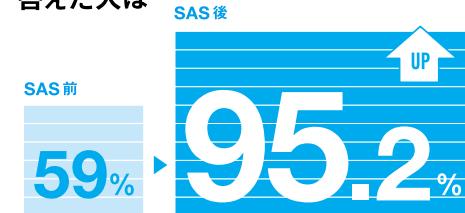
ペータ・ベンチャーキャピタルの林龍平代表取締役パートナー
地方では失敗をネガティブに捉える傾向があるが、失敗した人こそ成功に近づいているはず。「ナイスチャレンジ」と応援するメンタリティーを地域で育てることが大事。

参加者の満足度は

91.4 %

学びの場も充実している。全国で活躍する起業家や大学教授、地域の首長らが、地域発のイノベーションの可能性について討論。地域創生に必要なマインドセットやマーケティング、生成AIの活用など、今日から使える情報をインプットできる。

「スタートアップは身近な存在だ」と
答えた人は



05. この街で挑戦したい気持ちが高まるから

冒険に必要なものはなんだろう。ビジョン、仲間、それとも知識?SASで得られるのは、そのすべてだ。参加した下関出身の起業家は言う。「以前はスタートアップという言葉自体が知られていなかった。この場があれば、きっと変わる」。会場には熱心にメモを取り、積極的な交流を図る人々の姿が。そこには、挑戦しようとする意欲が満ちていた。地域の「あした」は、ここから変わる。

公式 Instagram 開設!

街の方々と交流する場所がつくれたらと思い、公式Instagramを開設しました。マガジンの内容はもちろん、誌面で紹介しきれなかった、街のあしたを照らしてくれそうな人や場所、取り組みも発信中です。みなさまからの情報、感想もお待ちしております。#YMfg



@ymfg_official

下関から、変革が起きる。そんな確信を抱かせる地域共創サミット・SASをご存知だろうか?下関が未だかつてない熱気に包まれる理由を調査してみた。

もう知ってる?

SAS (サス) がアツい5つの理由

01. 中四国最大級の地域×スタートアップイベントだから



参加者は、1日で

1000人!

人と情報の密度が高くてアツイ

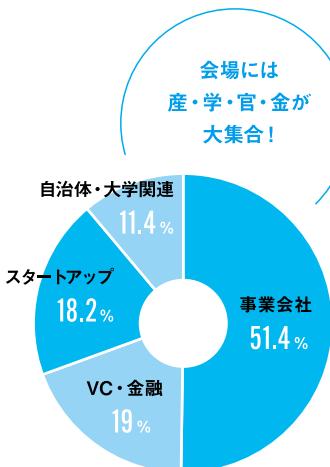
SASの開催は今年で2回目。海峡メッセ下関を会場に、6月4日に開かれた。参加者数は、会場キャパを大きく上回る約1000人。中四国最大級のサミットとなった。学びと出会いに満ちた会場は終始熱気に包まれていた。人と情報の密度もエリア随一だ。

02. 事業をスケールさせる出会いがあるから

力を入れるのは、出会いの創出。参加企業と個別に話ができるブースを会場の両脇に設け、担当者と気軽に面談できる。地方自治体や大学、金融機関からの参加も多く、情報交換や事業協力の相談があちこちで広がった。参加者からは、「人との距離が近い。首都圏のサミットよりも密に話せる」との声も。実際に、SAS2023では地方自治体と企業が連携協定を締結した事例もあるそうだ。変革はすでに、起きつつある。

SAS2024で生まれた接点は、

500件。

登壇者も、来場者も、
みんな本気です

あんがひろがる。
うんがひらける。



創業1947年、原料の質は絶対に落とさない不变の味
しあわせにお菓子をそえて
お菓子のみずま「ひょうたん最中」

特徴 福岡県八女産の抹茶、愛媛の伊予柑、北海道の特撰小豆の3種
内容量 1個約35g
原材料 餅米、小豆、白いんげん、手亡豆、抹茶、いよ柑、寒天、砂糖
賞味期限 約7日間